

HGG002-11

会場: 202

時間: 5月25日11:18-11:29

## 途上国の有機農業をめぐるパラドックスを題材としたESDワークショップと参加者の反応

### Participants' responses to ESD workshops on paradoxes of organic agriculture in developing countries

河本 大地<sup>1\*</sup>

Daichi Kohmoto<sup>1\*</sup>

<sup>1</sup>神戸夙川学院大学 観光文化学部

<sup>1</sup>Kobe Shukugawa Gakuin University

有機農業は、グローバルな食料供給システムや生産力至上主義へのオルタナティブ（代替的なもの）として論じられ、環境・社会・経済の各側面で妥当かつ持続可能な農法として期待されることが多い。しかし皮肉なことに、認証有機農産物の商品化により、この部門もグローバルな食料供給システムに取り込まれている。そして、途上国がいわゆる先進国に有機農産物を輸出する構造が成立している。

発表者は、この構造への意識を消費者に持ってもらうことが、地理教育、食農教育、開発教育などの要素をもつESD（持続発展教育）の視点から重要と考えている。そこで、自身の調査研究してきたスリランカの事例を中心に、日本の有機農産物消費者を対象とするワークショップを数回実施した。本発表では、この「南北問題」の構造が、参加者にどのように受け止められたかを検討する。

キーワード: 南北問題, ESD, 有機農業, 食農教育, 地理, スリランカ

Keywords: global North-South issue, ESD (education for sustainable development), organic farming, food and agriculture education, Geography, Sri Lanka